

愛媛県 武道館 だより

第11号

平成20年3月
愛媛県武道館発行
〒790-0948
松山市市坪西町551
(☎089-965-3111)

山下泰裕名誉館長講演会を開催

平成19年12月17日(月曜日)、(財)愛媛県スポーツ振興事業団、(財)愛媛県体育協会、愛媛県PTA連合会、愛媛県高等学校PTA連合会の共催により、愛媛県武道館副道場にて、愛媛県武道館名誉館長山下泰裕先生の講演会「スポーツ及び武道の果たすべき社会的役割」を開催いたしました。

講演会には、平日の開催にもかかわらず300名を超える方々にご参加いただきました。

「少年時代から、わんぱくで同級生に迷惑ばかりかけていた。柔道と出会い、中学・高校とすばらしい指導者と出会うことで、人間として成長できた。柔道が単に勝利を追い求めるだけでなく、人間として成長することに大きく役立ってきた。また、多くの方に支えられながら競技を続けることができた。競技を離れ指導者となり、人を単に一面からだけ見て評価してはいけない。人の足りないところを見るのではなく、良いところを見ることができることが大切であることを学んだ。そして、いつまでも夢を持ち続けることが大切である。」ことなどを自らの経験を基にお話いただきました。

「現在、神奈川県体育協会会長として、スポーツを通じた人づくりに努めている。スポーツに関わる者それぞれが日常生活の中でフェアプレーの精神を発揮することにより、大きな社会問題となっている弱者いじめの問題を解決することができる。スポーツ団体、武道団体が協力し、子供たちの健全な育成に努めていかなければならない。」ことをお話しいただきました。「愛媛県においても、武道やスポーツに携わる一人ひとりが意識をもってこの問題に取り組み、人づくりが行われることを望んでいる。そして、この武道館がその中核となる施設であってほしい。」と述べられ講演を終えました。

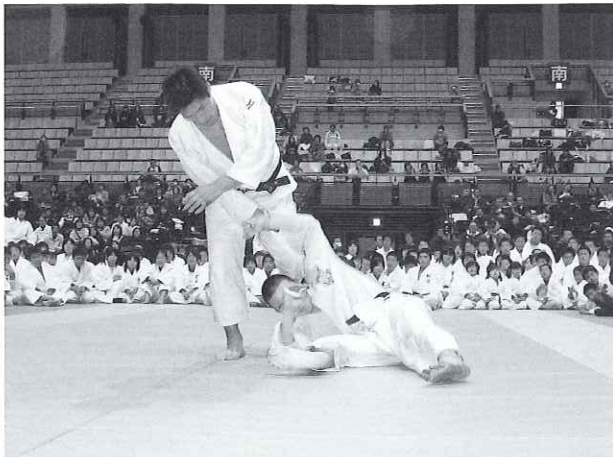


「媛の国」柔道フェスティバル2007 大会レポート

愛媛県武道館

平成19年12月15日(土)、16日(日)の2日間、愛媛県・愛媛県教育委員会・(財)自治総合センターの主催により、愛媛県武道館において、「媛の国」柔道フェスティバル2007が開催されました。

初日は、世界選手権・オリンピックの金メダリスト篠原信一、野村忠宏、阿武教子3選手を講師に、「媛の国」ふれあい柔道教室が開催されました。愛媛県内の小学生から高校生までの子供たち約1100人が参加し、篠原選手の軽妙な進行のもと、憧れの野村選手、阿武選手から、目を輝かせて指導を受けていました。特にオリンピック三連覇を成し遂げた野村選手の技のスピードに、驚きの声が上がっていました。



「媛の国」柔道フェスティバル二日目は、午前中にキッズ柔道大会を開催しました。東予地区2チーム、中予地区4チーム、南予地区2チームの合計8チーム各チームが対抗戦で交流戦を行いました。幼児から六年生まで各学年の交流戦には、応援の保護者からも大きな声援が送られていました。

《キッズ柔道大会 優秀選手》

	優秀選手		最優秀選手
中予A	松本一聖	山本純菜	木岡遼
中予B	塩見悦久	信岡弘太	安藤友紀
中予C	田中千晴	峯松凌汰	渡部要菜
中予D	小島隆仁郎	松岡由真	重松弥真斗
東予A	石川祐輔	藤田稀瑛	中内柚里
東予B	井上晃輔	妻鳥壮佑	日野允嵩
南予A	鳥井万衣花	河野はるな	上岡彩加
南予B	樋木勇期	内伸泰	篠浦菜津美

午後からは、世界の舞台で活躍する5カ国の女子選手を招待し、愛媛選抜チームを加えた6チームでの国別対抗戦「国際女子柔道大会」が開催されました。

参加チームを抽選により2つの予選リーグに分け、Aリーグが日本、韓国、ポーランド、Bリーグは愛媛選抜、フランス、スロベニアの組み合わせになりました。

予選Aリーグは、いきなり日本対韓国の優勝候補同士の対戦となり、緊張の中で試合が始まりました。開幕戦の緊

張もあり、5つの全ての階級が引き分け、全くの五分となり、規定によりゴールデンスコア方式の代表戦で勝敗を決することとなりました。小澤理奈とユ・ミ・ウオンの-63kg 同士の対戦となった代表戦も両者ポイントのないまま試合時間が過ぎ、旗判定の僅差によりからも日本が勝利を収めました。この戦いで勢いに乗った日本は、続くポーランド戦を4-0で圧勝し決勝戦進出を決めました。

予選Bリーグは、地元愛媛選抜チームの出場に大きな声援が送られました。パワーあふれる強豪国フランス、躍進めざましいスロベニアに、浅見八瑠奈・水口まり・宮本樹理・風戸晴子・山邊清香の全国の舞台で活躍するベストメンバーをそろえた愛媛選抜チームがどのような闘いを挑むか、観客もかたずを吞んで見守りました。

健闘むなしく、予選リーグ2敗で予選敗退となりましたが、地元愛媛でトレーニングを続ける風戸晴子選手の2勝をあげる活躍が特に印象に残りました。Bリーグからは順当にフランスが勝ちあがりました。

各ブロックの1位同士で開催される決勝戦は、日本とフランスの強豪国同士の対戦となりました。初戦-52kg級中村美里は、拮抗した試合から、終了間際に崩上四方固で押さえ込み1本勝ち。-57kgには愛媛県出身の宇高菜絵が、開始わずか8秒、切れの良い大外刈で鮮やかな一本勝ち、会場の大きな歓声を受けました。日本の圧勝かと思われたこの対戦ですが、続く-63kg級小澤理奈は、立ち上がりの隙を突かれ、開始17秒に朽木倒で敗れ、続く-70kg級上野雅恵は、有効を取られ優勢負け、対戦成績は2-2となり、優勝の行方は、最終の無差別級に持ち越されました。優勝を決する対戦には、日本重量級の第一人者、薪谷翠が出場、4分間の試合時間一杯に攻めましたが、決め手を欠き引き分けに終わりました。対戦成績は2勝2敗1引き分けとなりましたが、ポイント差で日本代表が勝利を収めました。世界を代表する選手の力・技・スピードに観覧の皆さんも身を乗り出して声援を送っていました。



《予選Aリーグ》

チーム	日本 Japan	韓国 Korea	ポーランド Poland	勝	負	順位
日本 Japan	-	○(代)-0	○ ④-0	2	0	1
韓国 Korea	△ 0-0	-	○ ②(内)-2	1	1	2
ポーランド Poland	△ 0-4	△ 2-②	-	0	2	3

注) ○-勝ち △-負け

(代)は代表による決定戦勝ち、(内)は内容勝ち

《予選Bリーグ》

チーム	フランス France	スロベニア Slovenia	愛媛 Ehime	勝	負	順位
フランス France		○ ②-0	○ ②-1	2	0	1
スロベニア Slovenia	△ 0-2		○ ③-2	1	1	2
愛媛 Ehime	△ 1-2	△ 1-3		0	2	3

注) ○-勝ち △-負け

《決勝》

チーム	日本 Japan	②-2 (20)-(15)	フランス France
階級	選手名	内容	選手名
-52kg	中村 美里 Misato NAKAMUR	⑩-△ 崩上四方固	デルサル・デルフィン DELSALLE Delphine
-57kg	宇高 菜絵 Nae UDAKA	⑩-△ 大外刈	ラントアン・カロリン LANTOINE Caroline
-63kg	小澤 理奈 Rina KOZAWA	△-⑩ 朽木倒	ヘンリー・ヴィルジーン HENRY Virginie
-70kg	上野 雅恵 Masae UENO	△-⑤ 優勢勝	レーグアイ・マガリー LEGUAY Magali
無差別	薪谷 翠 Midori SHINTANI	X-X 引分	マテー・ケティ MATHE Ketty

注) ○-勝ち △-負け

秋田国体を振り返って

愛媛県相撲連盟・常任理事

山口 貴史

平成19年9月29日から第62回国民体育大会「秋田わか杉国体」が東北の秋田県で開催された。

相撲競技において、愛媛県相撲連盟から成年の部に監督1名、選手6名（成年B・3名、成年A・3名）と少年の部に監督1名、選手5名、計13名を派遣した。

相撲競技は、秋田県潟上市の天王総合体育館で9月30日から10月3日までの4日間少年、成年B、成年Aの3種別で47都道府県がフルエントリーをして、総合優勝を目指し、郷土の名誉を賭けて、激しい力と力のぶつかり合う熱のこもった取り組みが4日間に渡り展開された。

愛媛県は、全国的に見て体格は大きい方ではない。また、実力的に見ても、上位（決勝トーナメント）に残る可能性は非常に厳しいチーム状況であった。

秋田わか杉国体を振り返ってみたいと思う。

愛媛県相撲連盟の理事会（8月4日）開催において、今年の秋田国体に参加するメンバーを決定した。相撲競技における愛媛県代表選手のレベルを考えると、少しでも早く強化練習を実施することで、稽古量の増加を図れる。また、体力アップやマンネリ化とも言える地元での稽古、俗に言う「井の中の蛙」では、稽古による体力は向上しても、精神面や技術面で劣ってしまう。

このような状況を踏まえ、8月に入ると同時に強化練習に取り組み、県外遠征等を探り入れ積極的に実施した。県外遠征に趣き、他県の選手と練習をすることで、環境の変化や多種多様な選手と練習ができるため、技術の向上も得られる。また、微妙な練習環境の変化によりリラックスした精神状態で練習に取り組める。

さらに、他県での指導者からもアドバイスを貰えることで、新しい技能や地力を的確に養える練習方法等が学べる。

また、練習に取り組む選手の姿勢や国体で対戦する可能性がある他県の選手と練習の中で競い合うことができる。お互いが「負けたくない」「勝ちたい」という切磋琢磨する気持ちが芽生えることで、精神面の強化にも好影響を与えることができた。

工夫した内容の強化合宿等を繰り返し実施することで、選手一人一人の迷いも無くなり、自分の相撲に集中することができるようになってきた。出場するからには少しでも上を目指して、入賞を合言葉に秋田へ乗り込んだ。

私は成年の監督を務める傍ら、少年のコーチやマネージャーの務めもあった。とにかく、選手が身体的にも、精神的にもいい状態で、試合に臨んでほしいという一心で、私自身が選手になったつもりで接した。

いよいよ、少年の部が始まる。選手に一言アドバイスをしていく。個々が全力を出し切るためには、集中することが大切である。とにかく、迷わず自分の相撲を取ることで伝えたい。

少年の部は先鋒、二陣、中堅、副将、大将の5人制である。愛媛県の布陣は先手必勝で、先鋒で勝って流れを掴む展開に持ち込むオーダーである。予選1回戦は山梨県である。見事5対0で快勝！続く2回戦は滋賀県と対戦、この試合では、愛媛県本部から県教育長、県議会議長等からの激励もいただいた。この激励も選手にとって心強かったのではないと思う。選手たちは落ち着いた相撲を取り、5対0の快勝であった。続く3回戦も徳島県と対戦し、5対0で完勝。見事、15戦全勝という結果で、愛媛県で史上初の3勝15点での予選通過順位第1位となった。予選結果とはいえ、愛媛相撲史に残る快挙であり、素晴らしい記録である。

決勝トーナメントの1回戦の相手は、茨城県である。予選順位こそ16位通過であるが、東洋大学附属牛久高校の選手で揃えた布陣で強豪チームである。勝算を考えると先鋒と二陣が勝てば勝機はあると判断した。コーチの立場としての私は、選手一人一人に落ち着いて普段の力を出せば集中力が増し自分の相撲が取れる。勝てるぞ、自信を持って悔いの残らない相撲を取るよう激励をした。

いよいよ入賞を賭けた勝負である。先鋒・二陣と連勝し、あと1勝、勝てるかもしれない！期待は膨らむ。続く中堅・副将戦も善戦したが惜敗、2対2の大將戦で勝負が決まる。緊迫の中、主審のかけ声で「はっけよい」立ち会いぶつかり合うが、右の上手が取れず、突き放され惜しくも敗れてしまった。一瞬体の力が抜けて、悔しさが込み上げてきた。非常に残念である。改めて1勝の大切さや、勝つことの難しさを味わった瞬間だった。

しかし、入賞を目前で逃し、一番悔しい思いをしたのは郷土愛媛のために戦った選手達だと思う。

悔しい表情を浮かべる選手達に、周囲からも労いの言葉が掛けられた。理事長を始め、少年監督、成年の選手達そして私、同じ志を持った全員が一丸となったふうにも感じられた。少年の部が終了後、午後から成年男子Bが始まり気力溢れる相撲で健闘したが、2勝5点で惜しくも予選通過ならず、また、翌日行われた。成年男子Aは奮闘したが、予選敗退という結果であった。

惜しくも入賞は逃したが、力を出し切り頑張った高校生に、この悔しさをバネにして、大学や社会人として活躍を期待したい。また、今回振るわなかった成年の今後の奮起にも期待したい。

秋田国体を振り返って、スポーツを取り組んできた人にとって、喜びや悔しさ、そして、人から学ぶことの大切さ

を改めて感じた大会であったと思う。

最後に、2017年の愛媛国体を目指し、今回戦った選手達が、指導者や支援者となり、小・中学生を中心とした底辺を少しずつ広げ、体力や技術面だけでなく、精神面での選手としての資質を養えるよう強化に努めていきたい。

平成29年えひめ国体に向けた私の夢

愛媛県空手道連盟 事務局長
伊藤 忠徳

第72回国民体育大会が、「えひめ」で催される。開催まであと10年を切り、行政側では施設整備に向けた検討等が行われ、「えひめ国体マスタープラン」も策定され、いよいよ本格的な開催方針が打ち出されようとしている現状にある。

そのような状況の中で、我が空手道連盟においても、本当に素晴らしい朗報が舞い込んで来た。聖カタリナ高校紺屋沙也乃選手が、去る10月19～21日トルコ・イスタンブール市で開催された第5回世界ジュニア&カデット空手道選手権に出場し、カデット(16・17歳)形の部で、見事に優勝の栄冠を勝ち取ってきたのである。



紺屋選手が、いとも簡単に優勝したように思われる方がいてもいけないので、経過説明を少しすると、18年3月地元愛媛県武道館で開催された全国高校選抜では、初戦敗退の苦い経験を経て今日に至っている。この敗戦等をバネにできるのが彼女の良いところであり、凹まずに練習を続け



19年3月の全国高校選抜の形の部・準優勝、また、19年8月の全国高校総体でも形の部・準優勝を果たし、この実績が認められ世界大会への道が開けたわけである。

当連盟としても、このような優秀選手を継続して発掘することが今後の課題と考えている。なお、紺屋選手の今後は、大学進学を機に一時的に県外に出て行ってしまいが、今後とも空手道をさらに極めていただき、10年後27歳になった紺屋選手が、えひめ国体での優勝を目標に益々活躍されることを、私の夢として報告を終わります。

平成20年度愛媛県武道館主な行事予定 (四国大会以上) 愛媛県武道館

日程	行事名
5/7	ゆずコンサート
5/18	平成20年度全国特定郵便局長会議
6/14～15	第61回四国高等学校卓球選手権大会
6/14～15	第29回四国高等学校なぎなた選手権大会
7/13	第38回四国家庭婦人バレーボール大会
7/27	第42回PLバトントアリング選手権 中四国大会地区大会
8/2～3	第23回四国小学生バレーボール大会
8/10	第50回全国教職員剣道大会
8/17	第15回極真空手四国交流大会
8/24	松山白鷺ライオンズカップ ジュニア空手道選手権大会
8/30～31	第27回中国四国学生柔道体重別 団体優勝大会
9/21	新極真空手中四国選手権大会
10/8	四国農業大学スポーツ大会
10/26	第32回全国育樹祭
11/1～11/2	第34回J S K主催 中四国九州空手道選手権大会
11/16	第15回中四国中学生レスリング選手権大会
12/14	四国家庭婦人バレーボール大会(シニアの部)
1/3	第39回近県少年剣道錬成大会 並びに 遠藤杯争奪戦
2/15	第36回全国高等学校選抜卓球大会 四国地区選考会
2/22	第33回近県少年剣道錬成久米大会 並びに 仙波義則杯争奪大会
2/28～3/1	2008/09 Vプレミアリーグ
3/8	四国4県柔道大会
3/15	第25回瀬戸内少年柔道大会
3/20～3/21	四国中学生バレーボール大会
3/26～3/28	第36回全国高等学校選抜卓球大会

(大会日程等は、変更される場合があります)